

一般質問Q&A

○ 地区の防犯カメラ設置について ○ 道の駅「恐竜渓谷かつやま」と「ジオターミナル」の現状について

市政会
下道恵子議員



そのほかの質問

- ・新型コロナ禍後の学校対応について
- ・コロナによる市内産業への影響について

※Park-PFI：飲食店、売店等の施設設置と、その施設から生じる利益を活用して、周辺の園路等を整備する制度
より選定する

問 この7月に市内で、夜中に個人宅に窃盗犯が侵入し、物が盗まれるという怖い事件が起きた。市では令和元年に防犯カメラ設置に対し、1台3分の2以内の補助で1地区100万の上限とした助成金制度を設定したが、地区の負担を軽減するため、市で一括購入し、地域に必ず1台は設置することにできないか、市の考えを伺う。

答 当該補助制度は、設置にあたり自治会の総会等で同意を得ていることや、あらかじめ自治会と警察署とで協議を行うことなどが要件となっており、各自治会において住民の同意のもと、設置場所や維持管理方法、情報の取り扱い等について協議いただく必要があることから、自治会の意向を優先し、当該補助制度を活用して設置する方が良く考える。

当該補助制度を利用することで、自治会の皆様の個人情報に関する不安を払拭し、同意、理解がより得られやすいのではないかと考えている。

問 恐竜博物館が新型コロナウイルスのために入場制限をしている中、令和2年6月20日にオープンした道の駅「恐竜渓谷かつやま」の立ち寄り人数と収益はどのくらいか。また「ジオターミナル」の令和元年度との比較はどうか。

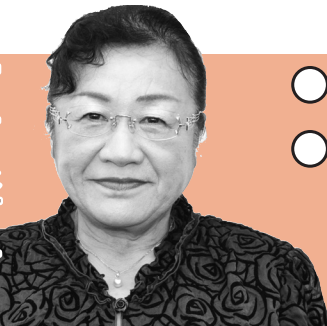
答 8月末日現在、来場者数は累計11万8096人、売上げは累計5012万3000円。

ジオターミナルの7月8月の来場者数の合計は8万530人で、対前年度比で約45%。売上げの合計金額は3421万1000円で、対前年度比40%にとどまっている。長尾山総合公園の※Park-PFIや道の駅隣接地の観光関連施設誘致を進めるとともに、勝山市の観光コンテンツのPRに努め、観光客に市内周遊を促し、地域経済の更なる活性化に繋げる様々な観光施策を進めていく。

一般質問Q&A

○ 地域おこし協力隊について ○ 子育て支援について

市民の会
富士根信子議員



問 地域おこし協力隊の方々への任期中の支給額はいくらか。どのような活動に取り組み今後の見通しはどうか。

答 市から隊員1名につき年間400万円を支給している。隊員各々が観光素材の磨き上げと商品開発等に取り組み、多様な形で市に新たな風を送り込んでいる。引き続き、特色ある地域おこし活動をサポートしていく。

隊員の任期後の定住を最大の目標の1つとし、任期中に先を見据えた支援を徹底し、一人でも多くの隊員の定住や関係人口の増加につなげたい。

隊員自身はSNS等を活用してPRしている。今後は、市内イベントにおけるPRブースの設置や市民との対話の機会を作るなどを検討していく。

問 子どものいる家庭の生活補助、母子、父子家庭への補助など金銭面は充実している。しかし、雨天で幼児や低学年児童が家族で遊べる場所が少ないとの声を聞いた。将来、親子で遊べる場所は子どものために必要だと思う。ぜひ、そのような場所をいくつか設置してほしいが、市の見解を伺う。

答 市内には、雨天時に家族で遊ぶことができる施設として、子育て支援センター「カンガルーのお部屋」や、ゆめおれ勝山、ジオアリーナ、図書館など、個人で利用できる施設がある。

しかし、子どもたちの成長に応じた施設は多くないため、今後、公共施設の有効活用などを含めて検討していく。

また、県のホームページには、親子で一緒に遊べる施設が数多く掲載されている。市内の施設と合わせてご利用いただきたい。